

『 育成事業

“若手演出家コンクール”

について 』

一般社団法人日本演出者協会

(文責:大西一郎、西沢栄治)

▶▶若手演出家コンクールの意図

日本の各地で活躍を始めている次代を担う演出家に、さらに活躍するための場を提供したいということがこのコンクールの最大の目的です。素晴らしい才能を持っているのにそれを生かす環境が無い若者が多くいます。その若手演出家が研鑽する場、世代やジャンルを超えた交流の場、社会への紹介の場としてこの事業を行っています。

※

1998年に文化庁のヒアリングがあり、副理事長・流山児祥と事務局長・和田喜夫が出席しました。内容は、“演出家の育成事業を始められないか”ということでした。その場で提案し、承諾を得、理事会で決定したのが“若手演出家コンクール”でした。その当時は演出家発掘・紹介のためのコンクールは利賀村以外には無く、全国の演出家の育成に必要と考え、理事会で内容の協議を始めました。若手の演出家が、身近な観客だけでなく第一線で活躍している演出家の意見を切実に聞きたいという現実にも応えて行きたいと考えてプランを練りました。

最も重点的に話し合った事は、

- 課題戯曲を設定せず、各自に任せる(戯曲の選定も演出家の重要な要素と考えました)。
- 2次審査においては、応募者の公演場所(通し稽古も可)に行く。

この2点を決定し、最終審査は副理事長・流山児祥が本多グループの本多一夫代表に相談し、毎年の開催を下北沢「劇」小劇場で実施することが可能となりました。

次に話し合ったことは、審査員をどの基準で選ぶかということでした。

協議の結果、協会の責任者である理事を中心に選ぶことが最良であるということと一致しました。その段階で、2001年度からの実施を決定しました。その後も理事会で協議を続け、このコンクールの課題を共有する言葉を話し合いました。

1. 全国各地からの応募があることを目標とする。
2. 各地の演劇環境を考慮して審査する(地域には演劇のための小劇場が無く、空間や照明の使い方の印象で不利に判断しないように配慮する)。
3. 活躍する演出家を社会に紹介する場とする。
4. 世代やジャンルを超えた学びと交流の場とする。

これらを基本方針としました。

賞は、①優秀賞4名（賞金10万円）、②最優秀演出家賞1名（賞金50万円）としました。原則として、“最優秀演出家賞の該当者なし”という判断は行わないことも決めました。

理事の大西一郎が中心となって募集チラシの詳細を決め、デザインを決め、最終審査のスタッフを選出して、2001年度に第1回目の開催となりました。（このスタッフが今もこの事業を支えてくれています。）

応募者は次第に増え、全国からの応募となり、当初は50人位でしたが、次第に増え、100人を超えることも有りましたが、この数年は85人前後です。応募の地域は、演劇大学の影響が強くあり、全国からの応募になっています。またここで受賞した演出家の殆どが今、日本の現代劇の牽引演出家として大きく活躍しています。

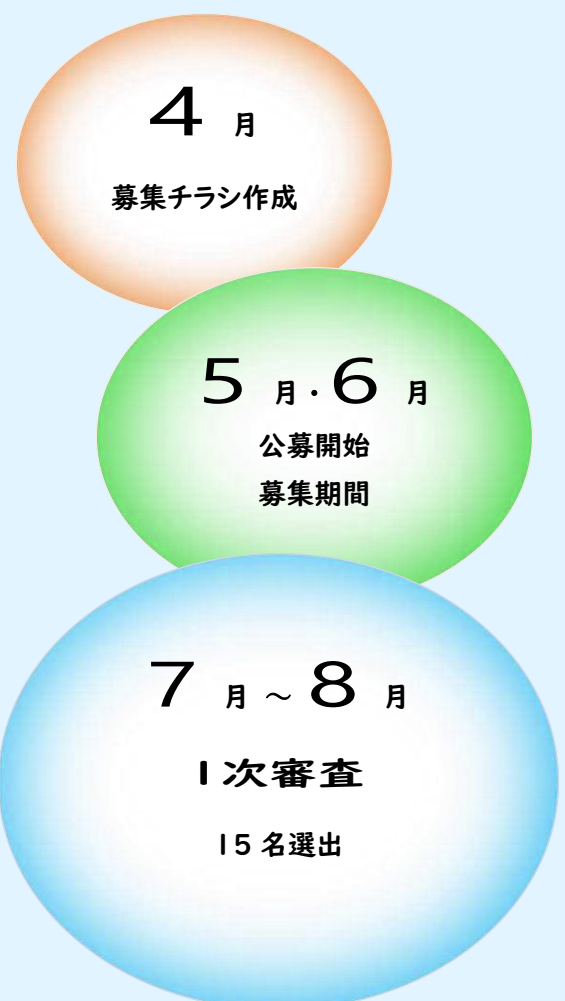
➤➤若手演出家コンクールの進め方

進め方の基本は、4月に募集チラシを作成し、配布し、5月・6月を募集期間としています。まず、1次審査のための募集案内のチラシを作成し、全国に送ります。

さらに、多くの若手に情報が届くように、SNS を利用した情報発信、勿論、協会員による口コミも行い、協会のホームページによる宣伝も行っています。

1次審査募集内容は、自分の演出作品のビデオと演出意図、プロフィールを送るという内容です。応募された作品、資料を審査員が2ヶ月間で審査し、8月末に1次審査会を開き、2次審査へ進む15人を選ぶというものです。

2次審査は、1次審査会で選んだ15人の公演または通し稽古を、審査員が直接観に行き審査する方法です。この方法は、単に審査するだけでなく、若手演出家との交流も重視しました。世代やジャンルによる断絶を無くそうという考えからです。また地域の問題などを知ることも大きな課題です。若手演出家の要望があれば作品の感想、助言なども行うことを方針としました。このコンクールの主旨を最も活かす方法と考えています。2次の審査の日程は9月の1次審査通過の連絡の後に確定してきますので、実行委員長・部長と事務局長、事務局が審査員の日程調整、交通手配を必死で行う状態です。基本方針として、5名の審査員が観ることとしています。12月初旬に2次審査会を開き、4名の



優秀賞演出家を選びます。12月末に授賞式を東京で行い、4名の顔合わせ、審査員を含めて会員への紹介、最終審査会の日程調整の説明を行っています。

1月に入って最終審査会のためのチラシ作りを始めます。4名の作品選定が遅れる場合もありますが、柔軟に対応し優秀賞演出家がベストの状況を作れるよう配慮して進めています。2月にはチラシを配布することだけでなく、ホームページへの告知、SNSでの情報発信で優秀賞演出家の名前をアピールしています。

最終審査会は、東京の本多劇場グループに相談し、下北沢の『劇』小劇場を2週間借りて、優秀賞の4人による競演を1週間行い、最終日の日曜の夕方に公開審査会を開き、最優秀賞者を選ぶ形を取っています。

2年目からは次の1週間で前年度の最優秀賞者の記念公演という形を取っています。記念公演では、会場費を提供する形です。1週間の最終審査会では、審査員数を奇数とすることを決め、9名で行っています。火曜日から公演を始め、それぞれの演出家の最初の公演の後にはアフタートークを行っています。これも出会いと、紹介の場としています。また広報部が優秀賞受賞演出家4名にインタビューを行い、ホームページへインタビュー内容を掲載し、広く紹介しています。すべての公演の後に、翌週の記念公演の宣伝も行っています。

最終審査会では4名の演出家にも発言して頂き、一方的なジャッジにならないよう配慮しています。議論の後に公開の場で投票し、最優秀演出家を決定しています。観客賞は4作品全てを観た観客の投票によって決めています。この二つの賞を発表し、授賞式を行い、4名全員に発言をお願いして、終了となります。その後には、毎年交流会を開き、審査員と4名が話し合う場を作っています。翌日より、実行委員と事務局が連動して、結果発表をホームページへの掲載などで報告する作業に入ります。少しでも多くの場で、4名の演出家を社会に紹介することを念頭にしています。

9月～10月
2次審査

15名の作品を劇場まで
5名の審査員が審査
(交通手段等手配)

12月
審査会
優秀賞4名選出

1月
最終審査会(4作品上演)
チラシ作成

2月
最終審査会チラシ
配布・広報

3月
最終審査会
優秀賞受賞者4人による作品上演
最優秀賞決定!

※平成 26 年よりソウル演劇協会との話し合いによって、新たな交流事業としてお互いの若手コンクールの最優秀演出家の受賞作品の交換上演を始めました。27 年度よりコンクールとの同時期の開催としています。次年度も韓国との“演劇でつながろう”とリンクさせ、次代の演出家への助言、活躍の場を増やすことが改善点と考えています。この事業は最優秀賞演出家の初の海外公演という大きな成果を上げましたが、現在は資金問題で中断しています。

➤➤若手演出家コンクールの成果

1. このコンクールから多くの人材が生まれた

2001年に第1回目を開催し、これまで、このコンクールで受賞した最優秀演出家も優秀賞の演出家も大きく活動を発展させています。下記の歴史を見ていただくとその詳細を理解して頂けると思います。協会では、この事業で選ばれた人材がすでに理事に選ばれ、また“演劇大学”の講師として望まれる状態になっています。

2. 全国の若手が応募してくれるようになった

最初の2001年の段階では、全国に広報しようと努力はしましたが、各地の若手がどのような活動をされているか、協会では認識できていない状態でした。その後、演劇大学で各地を回り、多くの若手演劇人や地元の演劇を盛り上げようと活動されているグループの皆さんにお会いし、このコンクールのことを話し、応募者が増えています。北海道、東北、北陸、四国、九州からの応募者が増えたことは大きな成果だと思います。

➤➤若手演出家コンクールの課題点

1. 東京から遠距離で活躍する演出家の交通費・宿泊費

各地からの応募者が増えただけでなく、受賞者も増えました。遠距離の演出家には10万円の遠距離手当を出していますが、できればもっと多くの補助を出したいと考えています。

2. 記念公演が遠距離の演出家の場合の補助費

各地の受賞者が増えたことは大きな成果ですが、翌年の記念公演では会場費の提供と宣伝に止まっています。東京から200キロ以上の場合、もっと補助を考えなければと思っています。

▶▶若手演出家コンクールの歴史



第 1 回若手演出家コンクール最優秀賞授賞式



第 3 回若手演出家コンクール審査会（審査員）



第 3 回若手演出家コンクール審査会（審査員）



第 3 回若手演出家コンクール最優秀賞授賞式

年度	授賞	氏名	出身	団体名	作品名
2001 年度	最優秀賞	小林七緒	東京都	流山児★事務所	その鉄塔に男たちはいるという
	優秀賞	外輪能隆	京都府	エレベーター企画	紙風船
	優秀賞	御笠ノ忠次	千葉県	激弾スペースノイド	童貞散華
	優秀賞	池田祐佳理	大阪府	劇団 Ugly duckling	ひとよ一夜に 18 片 (ショートサイズ)
2002 年度	最優秀賞	土橋淳志	大阪府	A 級 Missing Link	小屋ヲ建テル
	審査員特別賞	北川徹	北海道	HAPP	うみ。やま。ひと。
	優秀賞	伊地知ナナコ	東京都	劇団サッカリンサーカス	
	優秀賞	吉田小夏	東京都	青☆組	さくらさくら
	奨励賞	石神夏希	神奈川県	ペピン結構設計	ぼくの自転車のうしろに乗りなよ
	奨励賞	林未知	東京都	PORT	染む
	奨励賞	御笠ノ忠次	千葉県	激弾スペースノイド	ONE LIFE
	奨励賞	吉村八月	東京都	19GALES	

2003 年度	最優秀賞	西沢栄治	東京都	JAM SESSION	もし我々が何かを失った後に残るものはいったい
	優秀賞	世志男	東京都	Soul Rynch	鬱
	優秀賞	安永史明	福岡県	制作集団アントンクルー	参加辞退
	審査員特別賞	吉田小夏	東京都	青☆組	初雪の味
	優秀賞	三浦香	神奈川県	衝突安全ポディー	ゲラーッ！！
	優秀賞	武田操美	兵庫県	劇団鉛乃文檜	約束
2004 年度	最優秀賞	佐野崇匡	東京都	東京ミルクホール	大連☆純愛カーニバル
	最優秀賞	広田淳一	東京都	ひょっとこ乱舞	無題
	観客賞 優秀賞	左藤慶	東京都	WANDELUNG	オハコ△▼ロック♪
	優秀賞	小松幸作	東京都	海市工房	アゲハ
	優秀賞	清水友陽	北海道	清水企画	隣の王様
	優秀賞	白坂英晃	東京都	はらぺこペンギン	晩餐会
2005 年度	最優秀賞 観客賞	橋口幸絵	北海道	劇団千年王國	古事記一幕・イザナキとイザナミ
	優秀賞	石橋和加子	神奈川県	コスモル	桃湯～ももゆ～
	優秀賞	笠井友仁	大阪府	hmp	traveler
	優秀賞	前川知大	東京都	イキウメ	トロイメライ
2006 年度	最優秀賞	山口茜	京都府	トリコ・Aプロデュース	豊満ブラウン管
	観客賞 優秀賞	福原充則	東京都	ピチチ5	反撃バップ!!(改造)
	優秀賞	江尻浩二郎	東京都	怪物がめざめる夜ゴールデン	人魚まる裸みだれ髪
	優秀賞	西村太佑	埼玉県	グワイニャオン	ないでこ
	優秀賞	山田能龍	東京都	東京サギまがい	まっすぐな道でも嬉しい ～うーん、なんていうか…へ、Hey!～
2007 年度	最優秀賞 観客賞	あごうさとし	京都府	劇団ワンダリングパーティ	トータル・エクリップス
	観客賞 特別審査員賞	大塩哲史	東京都	北京蝶々	あなたの部品
	優秀賞	伊藤拓	大阪府	France Pan	あのリズム
	優秀賞	黒田圭	東京都	絶対安全ピン	one side
2008 年度	最優秀賞 観客賞	智春	東京都	チィキィ*パークウ	カンパニーマン
	優秀賞	小嶋一郎	大阪府	旧劇団スカイフィッシュ	適切な距離
	優秀賞	すがの公	北海道	劇団SKグループ	アイドゥーアイドゥー
	優秀賞	福正大輔	東京都	劇団ドロブラ	新・月の影で息継ぎを
2009 年度	最優秀賞	御笠ノ忠次	東京都	SPACENOID	個人的な話
	観客賞 優秀賞	長谷川達也	東京都	DAZZLE	ONE (縮約版)
	優秀賞	鹿目由紀	愛知県	劇団あおきりみかん	階段話
	優秀賞	城谷歩	北海道	劇団深想逢嘘	虚苑 (コエン)

2010年度	最優秀賞 観客賞	金哲義	奈良県	Ma y	晴天長短ーセイテンチャンドンー
	優秀賞	鹿目由紀	愛知県	劇団あおきりみかん	現在、進行形
	優秀賞	錫村聡	東京都	手作り工房錫村	水商売
	優秀賞	平塚直隆	愛知県	オイスターズ	続・トラックメロウ
2011年度	最優秀賞	平塚直隆	愛知県	オイスターズ	日本語私辞典
	観客賞 優秀賞	村井雄	千葉県	開幕ペナントレース	アントンとチェーホフの桜の園 [若手演出家コンクール 2011バージョン]
	優秀賞	柏木俊彦	東京都	第0楽章	あくびと風の威力～3600秒 ver.～
	優秀賞	スズキ拓朗	東京都	CHAiroiPLIN	さいあい～シェイクスピア・レシピ～
2012年度	最優秀賞	日澤雄介	東京都	劇団チョコレートケーキ	親愛なる我が総統
	観客賞 優秀賞	鈴木アツト	東京都	劇団印象 -indian elephant-	青鬼
	優秀賞	サリ ngROCK	大阪府	突劇金魚	絶対の村上くん
	優秀賞	中村房絵	広島県	天辺塔	箱
2013年度	最優秀賞	スズキ拓朗	東京都	CHAiroiPLIN	FRIEND～踊る戯曲～
	観客賞 優秀賞	シライケイタ	東京都	温泉ドラゴン	山の声ーある登山者の追想ー
	優秀賞	澤野正樹	宮城県	短距離男道ミサイル	FESTIVAL/ONOBORI ートーホクをヌグー
	優秀賞	山下由	東京都	Pityman	ハミングインウォーター
2014年度	最優秀賞	弦巻啓太	北海道	弦巻楽団	四月になれば彼女は彼は
	観客賞 優秀賞	大迫旭洋	熊本県	不思議少年	棘
	優秀賞	亀尾佳宏	島根県	雲南市民劇	Takashi
	優秀賞	山下由	東京都	Pityman	アラル
2015年度	最優秀賞	西尾佳織	東京都	鳥公園	ペルソナ
	観客賞 優秀賞	村井雄	東京都	開幕ペナントレース	1969:A Space Odyssey? Oddity!
	優秀賞	小佐部明広	北海道	劇団アトリエ	二番芝居
	優秀賞	山口将太郎	鹿児島県	Empty-Kubrick	とある部屋
2016年度	最優秀賞 観客賞	永野拓也	神奈川県	hicopro	ツクリバナシ・ミュージカル
	優秀賞	大河原準介	宮城県	演劇企画集団 LondonPANDA	生きてるくせに
	優秀賞	中村暢明	東京都	JACROW	カノチカラ～リグラールの変態～
	優秀賞	森田あや	神奈川県	らまのだ	みそ味の夜空と
2017年度	最優秀賞 観客賞	澤野正樹	宮城県	短距離男道ミサイル	走れタカシ ～僕が福島まで走った理由(わけ)～
	優秀賞	笠浦静花	東京都	やみ・あがりシアター	とんぷく虫
	優秀賞	神谷尚吾	愛知県	劇団B級遊撃隊	プロポーズ
	優秀賞	松森モヘー	東京都	中野坂上デーモンズの憂鬱	三月の家族。

2018年度	最優秀賞 観客賞	一宮周平	東京都	パンチェッタ	Ten
	優秀賞	うえもとし ほ	東京都	すこやかクラブ	ささやきの海
	優秀賞	國吉咲貴	埼玉県	くによし組	毒モ
	優秀賞	八代将弥 a.k.a.SABO	愛知県	room16/16号室	時計仕掛けの始まりと 80グラムシティー
2019年度	最優秀賞	深谷晃成	埼玉県	第27班 presents 「フカタニキカク」	ゴーストノート
	優秀賞	斜田章大	愛知県	廃墟文藝部	消失に関する短編二作 「モノカキ」「蟻を殺す」
	優秀賞	橋本匡市	大阪府	万博設計	夏の時間
	優秀賞	三上陽永	東京都	ぽこぽこクラブ	己のようなヤギつれて
2020年度	最優秀賞	三上陽永	東京都	ぽこぽこクラブ	見てないで降りてこいよ
	優秀賞	今井尋也	東京都	シルクロード能楽会	シルクロード能楽会 「道成寺」疫病譚
	優秀賞	國吉咲貴	埼玉県	くによし組	おもんぱかるアルパカ
	優秀賞	伏木啓	愛知県		The Other Side - Mar. 2021
2021年度	最優秀賞	亀尾佳宏	島根県	掛合分校演劇同好会 劇団一級河川	走れ!走れ走れメロス 酒とお蕎麦と男と女
	優秀賞	田中寅雄	東京都		?イカのだんすはすんだのカイ?
	優秀賞	点 滅	東京都	B機関	コメット・イケヤ
	優秀賞	柘形浩人	愛媛県	劇団 P. S みそ汁定食	巡る、母桜